

LANDSCAPE DESIGN

No. 102

土木から見たランドスケープ

Landscape seen from civil engineering

警固公園 通潤用水下井手水路の改修、【座談会】土木から見たランドスケープの可能性、
造園家 伊藤邦衛がつくる土木的風景、高速道路の造園、景観、環境



大手町の森
URBAN GREEN NEXT



LANDSCAPE DESIGN

No.102 2015年6月号

[目次]

SPECIAL ISSUE I

006

土木から見た ランドスケープ

008

警固公園 [福岡市中央区天神]

文／柴田 久 (福岡大学教授)

012

通潤用水下井手水路の改修 [熊本県上益城郡山都町]

文／田中尚人 (熊本大学准教授), 西山 穂 ((株)西日本科学技術研究所)

016

土木学会デザイン賞からみる 土木デザインの歴史と展望

文／福島秀哉 (東京大学助教)

018

[座談会] 土木から見たランドスケープの可能性

柴田 久 (福岡大学教授) × 田中尚人 (熊本大学
政策創造研究教育センター准教授)
× 戸田知佐 (オンサイト計画設計事務所
取締役パートナー) × 福島秀哉 (東京大学助教)

024

造園家 伊藤邦衛がつくる 土木的風景

文／進士五十八 (東京農業大学名誉教授)

028

高速道路の造園・景観・環境

公益財団法人高速道路調査会

SPECIAL ISSUE II

036

Urban Green Next 大手町の森

設計／大成建設(株)一級建築士事務所

LANDSCAPE WORKS

054

箱根山テラス [岩手県陸前高田市]

ランドスケープ／オンサイト計画設計事務所

062

札幌市北3条広場 [北海道札幌市]

ランドスケープ／(株)日本設計

070

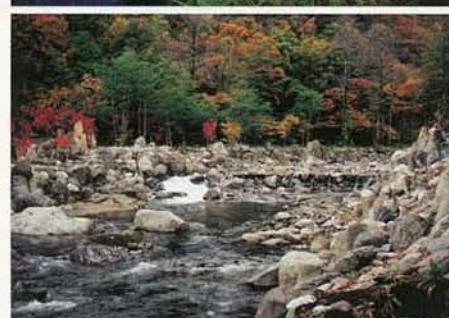
Okazaki Villa——日本庭園の再生プロジェクト [京都府京都市]

設計・施工／植彌加藤造園(株)

078

WORKS MOVEMENT

ズーラシア「アフリカのサバンナ」／品川シーズンテラス／
MORIPARK OutdoorVillage (モリパーク アウトドアヴィレッジ)



REGULAR

084

[コラム]

「和Wa」から「New Wa 柔和」へ——和の新解釈

文／網本義弘 (発想工学研究所主宰, 九州産業大学名誉教授)

094

連載 Waterscapes

[第10回] 水から発想するクライメイト・デザイン

水の雲と滝のエンジニアリングとデザイン——水環境の可視化とシステム

文／福岡孝則 (神戸大学大学院工学研究科建築学専攻 持続的住環境創成講座(積水ハウス) 特命准教授)

100

淵上正幸の建築・ランドスケープの旅¹⁵

グロービウス・ハウス (設計／ヴァルター・グロービウス)

文／淵上正幸

104

IFLA REPORT¹⁶

ノルウェー・日本都市開発交流プログラム

震災復興と持続的なまちづくり

資料提供／ノルウェー ホルダランド郡, RAMBALL社, Asplan Viak社

106

JLAU REPORT^⑥

JLAUステーキホルダー vol.4

文／平松宏城

110

江戸から東京へ 9

文／椎名和美 ((公財)東京都公園協会)

112

日比谷公園——緑と水の市民カレッジ

MORE

085

[書評] ジル・クレマン『動いている庭』

文／田瀬理夫

086

SEGES／社会・環境貢献緑地評価システム

公益財団法人都市緑化機構

090

防災ファニチャーの歩み

(株)コトブキ

120

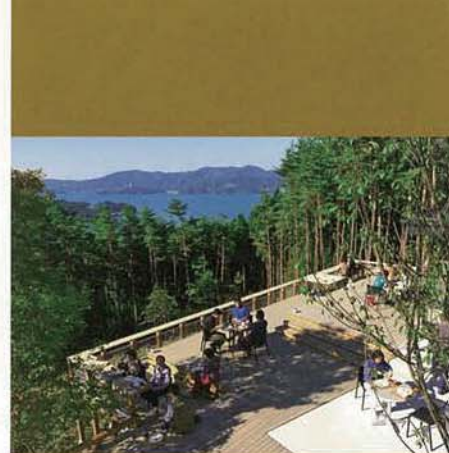
Information／Products／Books

124

バックナンバー

128

次号予告／広告索引



ランドスケープデザイン No.102
2015年6月発行

編集・発行人
丸茂 喬

[[ランドスケープデザイン]編集部スタッフ]

編集長
小林哲也

編集・デザイン
丸茂弘之
中村桂祐

営業・広告企画
松田清江
中村桂祐

販売促進・海外事業
一ノ瀬健介

販売
平澤光枝

[協力スタッフ]

デザイン
村上 和 (目次, P.104-112)

ロゴタイプデザイン
春日浩一郎

印刷・製本
株ローヤル企画

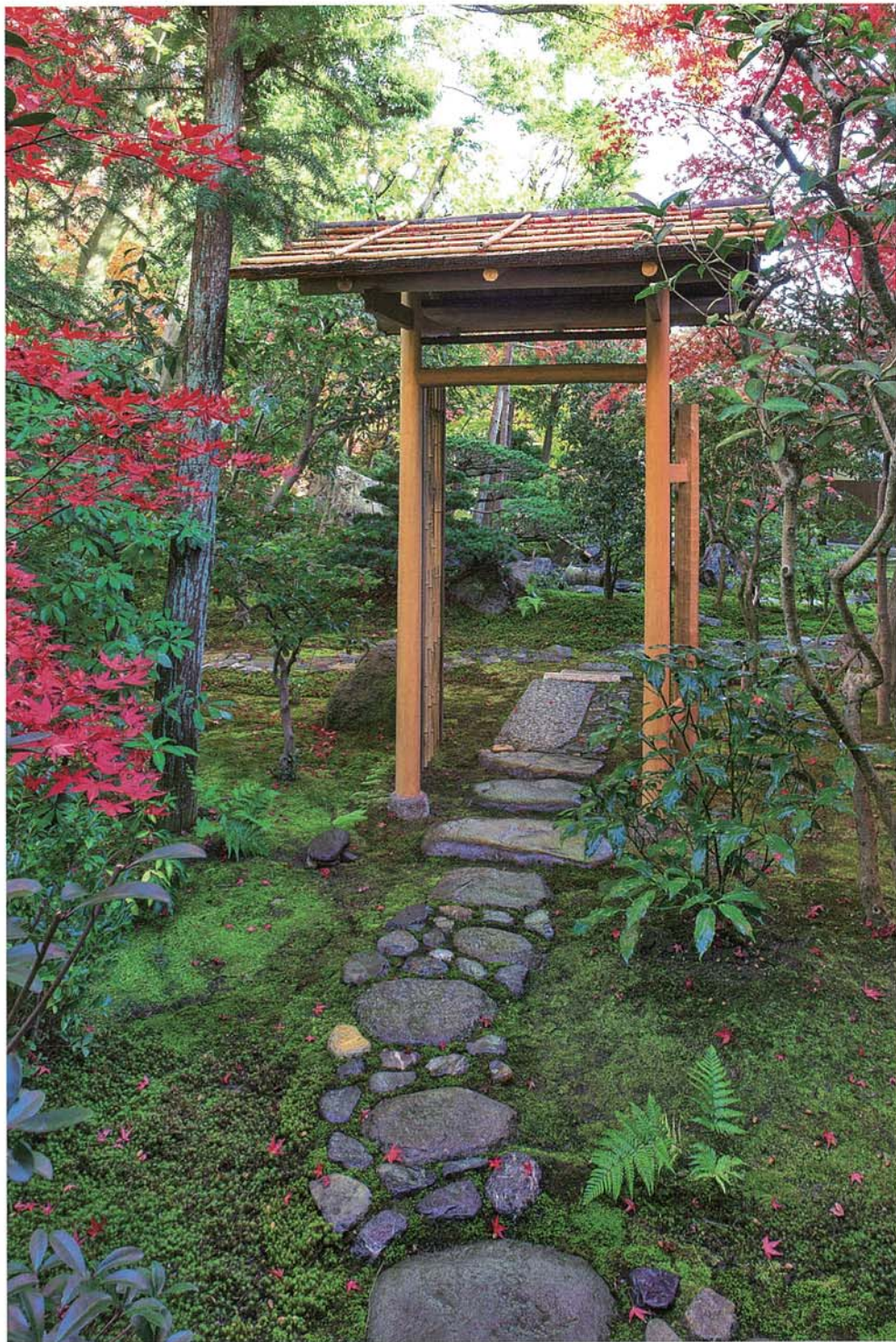
取次店
トーハン、日販、大阪屋、栗田、太洋社

発行所
株マルモ出版
〒150-0036 東京都渋谷区南平台町4-8
南平台アジアマンション708
TEL 03-3496-7046 FAX 03-3496-7387
E-mail: design@marumo-p.co.jp

HP: <http://www.marumo-p.co.jp>
blog: <http://marumold.exblog.jp/>
twitter: http://twitter.com/marumo_p

ISSN 1341- 4747

禁無断転載
©株マルモ出版
本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載、
および複写を禁じます。



中門

Okazaki Villa — 日本庭園の再生プロジェクト

京都府京都市

設計・施工＝植彌加藤造園株式会社

写真＝田畑みなお、植彌加藤造園株式会社*

Okazaki Villa-Revival project of a Japanese garden
Kyoto-shi, Kyoto

Design and building by UEYAKATO LANDSCAPE Co., LTD.
Photos by Minao Tabata, UEYAKATO LANDSCAPE Co., LTD.*



右／玄関へと続く延段

本プロジェクトは、京都市左京区岡崎で大正期に作庭された日本庭園の再生プロジェクトである。10年以上放置されていた日本庭園を施主の意向に沿いながら、職人の技術と創意工夫により蘇らせた。約2年半に渡るプロジェクトは、既存樹木の修復剪定等による庭園本来の姿を蘇らせることから始まり、その後、施主と共に庭園修景工事計画を策定した。大正時代から現在まで遺されてきた景色を活かしながら、庭園内を10のStageに分け、新たな景色を創造した。日々、日本庭園を育んでいる庭師達が、今後も将来に渡り育み続けることを考慮しながら再生した日本庭園である。

①周辺環境との調和と既存庭園の活用

本庭園がある岡崎地区は古くから寺社や別荘庭園が集まっていた文化的価値の高い地域である。東には東山三十六峰が連なり、庭園内には琵琶湖疏水からの豊富な水が流れ込んでいる。これらの周辺環境と既存庭園の要素を活かした日本庭園を計画した。東山から流れ出る滝をイメージし、庭園の東側へ滝流れを設け、琵琶湖疏水からの水を利用した園池を作庭した。また既存庭園には、かつて松林であった東山との連続性を考慮して松が多く植栽されていた。改修工事においては既存松の美しさを引き出す景色づくりを行い、今後も松の景色を継承していくために新たな松の植栽を行った。

②既存樹木の修復剪定による景色の育成

再生前の既存庭園は、樹木が繁茂しすぎており庭園全体が暗い印象となっていた。改修の際にはむやみに樹木を伐採するのではなく、庭師の剪定技術による景色の再生を行った。伐採は枯損木や危険木など必要最低限にとどめ、他の樹木は庭園全体のバランスとこれからの生長を考慮しながら修復剪定を行った。修復剪定後も年間を通して手入れを行い景色を育み続けている。

③建築との融合「庭屋一如」

庭園の再生と同時に建築の改築工事が行われた。計画段階から建築の設計者と綿密な打ち合わせを行い、庭園と建築が一体となった「庭屋一如」の景色を計画した。施工の際には建築内部の視点場から庭園を眺めながら景石や樹木の位置を決定した。特に立礼席は内部と外部の境界が曖昧で、庭園と建築との連続性が感じられる空間が成立している。

文＝加藤友規（植彌加藤造園株 代表取締役社長）



書院前 修復剪定 施工前*



書院前 修復剪定 施工後*



書院前 改修後*



書院からの眺め



立礼席内部



全体計画平面図



楓林の庭 改修後（石橋と楠の丘）



楓林の庭 池と沢飛石



楓林の庭 改修前（石橋と楠の丘）*



石橋と園路



楓林の庭 沢飛石から石橋方向を見る

上／沢飛石据付 施工中*
下／楓林の庭へ続く山道風園路 既存庭園で使用されていた石材を再利用した



滝石組へ続く園路と石橋 改修後

滝石組



上／伽藍石と石敷園路 改修後
左下／伽藍石と石敷園路 改修前*
中下／降蹲踞
右下／滝石組へ続く園路と石橋 改修前*



石橋搬入 施工中*



滝石組 施工中*

Okazaki Villa ― 日本庭園の再生プロジェクト

所在地 京都府京都市左京区岡崎
用 途 個人邸
設計・監理・施工 庭園／植彌加藤造園株式会社（加藤友規、鳥居ヒューゴ、小山由美）
建築／もろとみ工務店（諸富正志、滝本耕二、高木文）
敷地面積／約 3070 m²、庭園面積／約 2660 m²
設計期間 平成 24 年 5 月～平成 26 年 12 月
施工期間 平成 24 年 5 月～平成 27 年 2 月
植 栽 【中高木】クロマツ、イロハモミジ、シダレザクラ、モッコク、ヤブツバキなど、【低木】アセビ、ヒサカキ、コバノガマズミ、アオキ、ボタンなど、【地被】スギゴケ、芝、タマリユウなど